

令和3（2021）年度

第一回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 令和3（2021）年8月20日（金） 午後1時30分～午後3時45分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 西山・後藤・橋爪・伊藤・勝田・山口・村田・岩崎・齋藤・八代委員

* オンラインでの出席者を含む

【1 開 会】 高橋館長（昨年度開催できなかったお詫びと出席状況の確認）

* 欠席 山口・勝田・佐久間・中久保・喜田委員

* 出席委員数は全委員13名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧特別館長 挨拶 、 坂原課長 挨拶

【3 新委員の報告と全委員の自己紹介】 （資料P.1 委員名簿参照）

* 矢田・瀬尾委員に代わり勝田・山口委員、玉置委員に代わり西山委員。

* 内山委員に代わり後藤委員、一瀬委員に代わり中久保委員。

【4 職員の異動】 報告と自己紹介（資料P.2 博物館組織図・職員配置図参照）

* 落次長に代わり道場次長。（職名の変更）中牧館長が中牧特別館長、高橋参事が館長、池田主幹が副館長に。（昨年度より）新任；竹原学芸員、再任用；藤井学芸員。

【5 議長・副議長の選出】 議長；伊藤委員 副議長；村田委員

【6 傍聴報告】 傍聴者なし。

【7 案件（1）事業報告（令和元年度、2年度）について】

（議 長）案件（1）事業報告（令和元年度、2年度）について、事務局より説明をお願いします。

* 事務局より説明。

（議 長）（1）事業報告について、ご質問ご意見はありませんか。

（議 長）各委員から質問が出る前に私から一つ質問を。P.22の購入資料ですが、博物館協議会としての計画もあるだろうし、市の予算もあることでしょう。実際、購入を目指しているもの、欲しいものを購入できているのか、そのあたりはどんな感じですか。

（事務局）購入資料としては、美術資料と歴史資料が多いのですが、予算的にも決して大きな額ではな

く、美術品など高額で購入できないものが多くあります。予算に見合う資料が出てきたときにその都度検討し、購入に至るという感じです。現状、予算内で購入できるものが出てきた時に検討し購入している状況です。

(委員) 私は基本的なことの一つお尋ねしたい。本日、2年ぶりの開催となった。昨年はコロナで様々なことがあり開催できなかったのだろうが、去年でもやろうと思えばできたはず。対面では難しかったのだろうが、オンラインやズームでならできたのではないか。その時々、一年一年ごとに評価をし、総括する意義があると私は思う。昨年混乱していたので、ちゃんとした評価ができなかったとしても、それはそれなりの、その時における在り方が反映されるもの。昨年度この協議会を開催できなかった理由について、基本的なこととして、もう少し教えていただきたい。

(館長) ご指摘の点につきましては、弁解の余地がございません。昨年度は第1回の日程調整をしていた矢先に緊急事態宣言が出され、中止となりました。市の方でも「審議会等については延期・中止」という方向性が出されていまして。その後感染者数が落ち着くも「審議会の開催は見合わせなさい」ということでした。秋になり解除されたものの、この状況の中、その先の見通しがつかず、私自身開催することに迷いがあり、対面での開催は厳しいと判断しました。オンラインでの開催については、博物館にそういった設備がなく、市の他の部署についても十分に対応できていない状況にありました。そうしているうちに、再び緊急事態宣言の発出となり、開催する機会を失っていたところです。また、評価については、委員のおっしゃるとおりで、年度ごとにすべきものと思います。このたびは、2年分の評価をお願いすることとなってしまいますが、この間の経過説明と併せて、ご理解願います。

(委員) ありがとうございます。大変な中いろいろな事情があったことを理解しますが、一応とりあえずお聞きする必要があったと思います。

(議長) 他の委員の中で、何かございますでしょうか。

(委員) このコロナで社会が変わり、その先が見えない状況のなか、ポストコロナに博物館はどのような戦略を持つべきなのか、そのようなことを議論する必要があると思う。今後、情勢は変わるのだが、吹田市の博物館がこの先進んでいくにあたって、ポストコロナにどう対応するのか、というアピールについて、どうお考えなのか。このチラシにもあるように、コロナ関連を集めたのは、このコロナ禍における博物館の存在意義を示そうという、これも一つの戦略だと思うが。一方で、市民にとって博物館というものは不要不急なものか。自分たちはそう思っていないが、どうしても世の中の的にはそう流れがち。阪大博物館もずいぶん休んでいたが、結局コロナのために仕方なかったという評価になりがち。協議会としてテーマにあげて、どうすべきなのか考えてみてはどうか。

(議長) ありがとうございます。今も進行中なのですが、予定していた特別展が中止になったりして、悔しい思いもされたことでしょう。また、発信しなければということでバーチャルミュージアムとか、オンラインでの講演会を開催するなど博物館としてのアクションが伺える状況にあったと思われまます。そういった意味でも重要なご意見を頂いたと思います。事務局の方ではいかがですか。

(館長) ポストコロナがいつになるのかは難しいが、ご指摘いただいたコロナについては、現在進行形でございますが、近現代担当の学芸員の発案で、関連資料を収集し、現在は茨木市とも連携しコロナ巡回展を開いています。博物館ができることとして、百年後の人たちに資料を示し、そして検証してもらおうと開催している事業の一つで、進めていきたいと思っております。アピールの面では、情報発信としては昨年秋の万博展に関わり、いつ休館になっても特別展を見ることのできるバーチャルミュージアムでの特別展のページを作ったり、イベントも中止になるかもしれないというなか、オンラインでのイベン

トを計画しました。オンラインの良さもありますが、著作権に係る課題や、いつまで掲載し続けるのか、といった課題もございます。一方で、この春の特別展では全部講演会等を対面でやろうとしていました。これは夏に改めて延期となりましたが、一つは講師さんの思いもあり対面での講演会も行いました。対面の良さもございます。また、これまで重視してきた「さわる展示」も元に戻していきたいと思っております。また、これまで大切にしてきた出前授業などの学校連携も進めていきたいと考えています。

(特別館長) 私からも補足させていただきます。ポストコロナに係る博物館としての大方針や計画があるわけではありませんが、学芸員のなかで共有し議論を進めているところです。そんな取組の一つとして、コロナ関連資料の収集に関する取組がございました。報道機関からの取り上げも多くありましたし、これまでできなかった他市との連携などもこの機会に行うことができたと思っています。現在行っているコロナ巡回展では、茨木市との連携を行うことができています。市役所や図書館など予想もしなかった展開・広がりもありました。密を避けながらバーチャルミュージアムやオンラインでの情報発信など様々に進めてきたところです。そこには、密を避けながらの市民参画の在り方など課題もありますが、学芸員の試行錯誤の中、将来へとつながる取り組みを進めているところです。皆さま方からのお知恵をいただきながら更なる展開へとつながるよう、今後も進めていきたいと思っております。

(議長) ありがとうございます。一点だけコロナに関することで言いますと、現代資料をどう収集するか、資料収集論の観点から言いますと、今回集められた資料ですね、今までだったら集めなかったような形態の資料を集めておられる。これは資料収集ということで新しい提案をされていることだと思う。価値の定まったものを淡々と集めるということではなく、新しく何か意義があると、価値づけすべきと学芸員、館が見出して、それを新たな収集対象にしていって、博物館のコレクションを広めていく、またそれを市民が支えるといったことがコロナの資料収集になっているということ。私はネットやマスコミの反響を見ていて、たぶんすばらしい取組が進んでいっているのではないかと思っている。今後の巡回展、資料収集を整理され、博物館資料として登録していく、といった動きになればいいと思う。そんなことを少し感じておったことを付け加えさせていただきたい。

(特別館長) このコロナ禍のなか、学芸員だけではなく、資料収集にあたっては市民の関わりが大きかったということを一点付け加えておきます。

(議長) 更なる情報発信をお願いします。オンライン参加の委員の先生、他はいかがですか。

(委員) 特に付け足すことはありませんが、このコロナ禍のなかでの先ほどの取組については、大変興味深く聞かせていただいていた。バーチャルミュージアムやHPのアクセス数とか、何かデータがあれば、教えて欲しい。

(事務局) 承知しました。

(議長) ありがとうございます。

【8 案件(2)事業計画(令和3年度について)】

(議長) 案件(2)事業計画(令和3年度)について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

(議長) (2)事業計画について、ご質問ご意見はありませんか。

(委員) コロナに係る資料として、オリンピックやアベノマスクなど、様々に集めますか？

(館長) コロナについては、ありとあらゆるものを集めています。「コロナ」の文字があるものはすべて、なんでも。また、モノだけではなくアンケートやお店、保育所等実際の聞き取りを進めてい

るところです。

【9 案件（3）課題討論（令和元年度、2年度事業点検・評価について）】

（議長）では、案件（3）の課題討論へと進めたいと思います。令和元年度及び令和2年度の事業点検・評価について事務局より説明を求めます。

*事務局より説明。

（委員）本日の資料「事業点検・評価チェックシート」には、文字が切れていて読むことができない部分がある。

（議長）印刷の関係からなのか、文章が読めない部分がある。きちんと読み込むことのできる資料を再度送っていただけますか。

（館長）申し訳ありません。改めて資料を読める形で再送付します。

（議長）では、新様式になっている点と評価点について、何かございますか。

（委員）点が有るか無しかで、どのようなメリットがあるのか、教えていただけないか。

（館長）10段階の評価では、これまでも自己評価の点に引っ張られる傾向がありました。また、評価の質の問題として点数だけではなく、どんなところがよかったのか、博物館の運営に関して、どんなところに課題があるのか、言葉としてもいただければ、と思っています。

（議長）確かに、自己評価の点に引っ張られがち。文字だけで財務や議会対応など、行政的には大丈夫ですか。

（館長）行政評価と博物館協議会としての評価とは別のものととらえています。協議会としては、こんな評価をもらっているということが博物館の運営にとっては大事だと考えます。

（委員）点数については、どうしても引っ張られがちというところはあるけれども、点数が低いということはここが大問題だということだし、点数が高いと、ここは良かったということがわかる。これまでも「どうしても点数を」、という流れではなかったと思う。点数はやめたらどうか。

（議長）オンラインでご参加の委員の先生、どうですか。

（委員）自己評価の点に引っ張られがちだが、10段階に分けるのは細かく分けすぎでどうかと思う。評価自体は必要。何段階かに分けて評価すべきだと思う。

（議長）ありがとうございます。到達しているかどうか、何らかの形で評価することは必要だと。文章なのか、点数なのかは置いといて、明確にわかるような工夫が要ると。

（館長）何段階かはわからないけど、ということですか。

（委員）はい、3段階なのか5段階なのか、AからEなのかはわからないけれど、よくできた・できた・がんばろう、といったような、ひと目でわかるもの。

（館長）3段階ないし5段階で、わかるように入れておいたほうが良いということですね。

（委員）何段階かで評価しない、文章で書くとすれば、全く書けないことも考えられる。これまでも何らかの評価ランク付けがある方がありがたい。

（議長）何らかのランク付けということで、例えば、「目標にほぼ達している」「水準に達していない」とか、3つほど具体的な決まり文句があって、それに従って評価するということですか。今後のスケジュールとしては、チェックシートの令和元年度については第2期なので、点数評価をするということですか。

（館長）第2次中期計画である令和元年度については点数評価をお願いします。第3次中期計画に入

る令和2年度については、どうするのか議論をいただきたい。

(議 長) 第2次中期計画の最終年度となる令和元年度については、点数評価をするということですね。第3次中期計画に入る令和2年度については、どうするのか、ということですね。このあと次の協議会では。

(館 長) 次の第2回協議会が10月下旬開催予定。早急に資料を修正したものを委員の皆様にご送りますので、9月末ごろまでに、各項目ごとに評価をしていただき事務局へ。それをもって、第2回協議会でご審議をいただき、という流れになるかと思っております。その後、議長名での報告書作成となります。

(議 長) スケジュール・流れはわかりました。評価の合わせ方について、何かご意見は。

(委 員) 点数をつける評価ですが、確かに自己評価点に引張られがちだが、あるところについては10段階で判断しやすかったり、そうではないところもあったりでした。それが点数として独り歩きする恐れはあったけど、それがABCとかの3段階で表すとなっても、Cだから最悪ということではなく、努力している点も認めつつのC評価と理解している。委員からもそんな意見があったと思う。

(議 長) 前回までの議論で、数値での表記は廃止との意見があったと理解。表記の工夫として3段階なのか5段階なのかはわかりませんが、なにかどんな状況にあるのかがわかるような、簡便な表記にしていくということで、事務局よりなにか具体の提案をしていただき、それをもとに次回協議会で審議・最終判断ができれば、と思っております。

(委 員) 博物館のなかで、これはここまでがんばったから7か8で、この状況の中で2.0だが、ここまでしかできなかったから2.2とか、数字で表すことは必要ないと思う。取組の様子を表す評価の言葉で、表していけばよいと思う。ただ、高いレベルでの「達している・達していない」というのと、予算や人の配置などで、低い目標設定に対しての「達している・達していない」とでは異なると思うので、そういう視点でも言葉表記の工夫を。また、第3次中期計画には、感染症流行からコロナのために入館者が目標値に達しなかった、とかがあると思う。これについても、どうするのか考えておいたほうが良い。

(議 長) ありがとうございます。内容面についてはどうですか。取り上げ方やもれなどは。

(委 員) この間コロナ禍により、バーチャルミュージアムのコンテンツや元々あるペーパークラフトの活用が増えたのかどうか、そんな視点での内容を盛り込んだほうが良いのでは。また、1ページ目に大きな構造がわかる目次のようなものを付けていただくとありがたい。関連付けて見やすいように。

(議 長) ありがとうございます。このコロナ禍のなか、中止になったことだけではなく、新たに取り組みされたことについては、きちんと項目の中に入れてください。きっちり評価をしていくべきだと思うので。

(館 長) 目次に対応するものはつけさせてもらいます。目標の達成度については、何か素案を付けさせていただきます。次回、最終的な判断のためのご審議をよろしく申し上げます。

(議 長) その他、何かございませんでしょうか。

(事務局) 最後に連絡です。現在、外壁改修工事と空調設備の工事中です。来年度には開館30周年を迎えるのですが、それに先行し7月から来年3月にかけて老朽化した施設の改修工事となります。大規模修繕工事は、30周年を迎えた後の令和8年度から12年度の、どこかで実施の予定です。

(議 長) これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。